



[teeta]



「テエタ」

「テエタ」はアイヌ語で“昔”を意味します。北の大地で繰り広げられた昔の人々の文化や環境を、現在と未来の人々に伝えるのが私たちの仕事です。昔のこと、古いことを広く知ってほしいという願いを込めて「テエタ」をこの冊子のタイトルにしました。



森町森川3遺跡大形竪穴住居跡（縄文時代前期）

○特集	（財）北海道埋蔵文化財センター25周年事業	2
○平成16年度発掘調査概要		4
○共和町リヤムナイ3遺跡		5
○早来町大町2遺跡		5
○森町濁川左岸遺跡		5
○平成17年度発掘調査予定遺跡一覧		6
○はるかなる時を越えて……北の縄文文化回廊展		7
○設立25周年の資料蓄積		8

○特集 (財) 北海道埋蔵文化財センター25周年事業

(財) 北海道埋蔵文化財センター25周年にあたって

財団法人北海道埋蔵文化財センター設立25周年を記念して、昨年(2023年)の11月20日に記念講演会とシンポジウムを行い、記念誌『遺跡が語る北海道の歴史』を刊行いたしました。

財団は、昭和54年に北海道教育委員会によって設立され、それまで道教育委員会が直接行っていた公共事業等に伴う発掘調査事業を引き継ぎました。新千歳空港と北海道縦貫自動車道の建設工事に伴う事業を始めとして、平成15年度までの総事業量は、247遺跡、170万㎡に及んでおり、そこから掘り出された遺物数も2,000万点を超え、刊行した報告書は209集を数えます。

現在の文化は、祖先の築いてきた文化遺産を基盤として成り立っており、我々の祖先が営々として築いてきた文化遺産を、未来の文化創造のために保存して、後世に引き継いでいくことは、現代に生きる我々の責務であるといわれています。

今後とも、埋蔵文化財の保存や保護活動に関わる事業につきまして一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(財) 北海道埋蔵文化財センター 理事長 森重 楯一

 (財) 北海道埋蔵文化財センター設立25周年記念講演会・シンポジウム
 アイヌ文化の源流を探る

- 擦文文化・オホーツク文化研究の最前線 -



基調講演「交易からみた北方古代史
 -古代人が欲しかったものは-」
 菊池俊彦氏 (北海道大学大学院教授)



トーク 菊池俊彦氏・大澤宏一氏 (フリーアナウンサー)

(財)北海道埋蔵文化財センターが調査した、恵庭市西島松5遺跡、千歳市ウサクマイN遺跡、奥尻町青苗砂丘遺跡など、続縄文文化・擦文文化・オホーツク文化の遺跡から、北海道の古代を解明する上で重要な資料が出土しています。今回の講演・トーク・シンポジウムでは、毛皮と鉄製品に焦点を当て、北海道と本州の交易についてとらえ、アイヌ文化の形成について考えました。

菊池先生の講演は、擦文文化とオホーツク文化の時期に本州や大陸から鉄器が運び込まれていたことに注目し、その対価として渡されたものが毛皮ではなかったかと推測したものです。本州の国家や中国の国家で毛皮が使用されている文献を示してその仮説を裏付け、北海道や東北アジアでの毛皮交易の様子を明らかにしていきました。

また、トークでは、なぜ毛皮が必要だったのか、鉄製品がどのように使われたかなどについて、やさしく解説しながら議論がなされました。

テーマ講演 「鉄と毛皮」

事例報告



「続縄文・擦文文化の鉄製品と鉄生産」
鈴木信
(財)北海道埋蔵文化財センター

続縄文時代から擦文時代にかけて、本州の鉄製品がどのような経路で北海道にもたらされたのかを時代を追って示しました。



「恵庭市西島松5遺跡」
石井淳平氏
(厚沢町町教育委員会)



「千歳市ウサクマイN遺跡」
田中哲郎
(財)北海道埋蔵文化財センター



「オホーツク文化の毛皮」
種市幸生氏
(北海道教育庁文化課)

オホーツク文化の海獣狩猟とその毛皮製作手順を遺物からとらえ、本州や渤海国との毛皮交易の存在について述べました。



「奥尻町青苗砂丘遺跡」
皆川洋一
(財)北海道埋蔵文化財センター



「網走市モヨロ貝塚」
米村衛氏
(網走市立郷土博物館)



ディスカッション

ディスカッションでは、北海道と本州の国家との関連に着目し、オホーツク文化がなぜ青苗砂丘遺跡まで南下したのか、古代国家がなぜ北方へと勢力を伸ばして行ったのか、などの問題について討議しました。道内では擦文文化始め頃から、刀、刀子、古銭など本州からの金属製品が多く出土することが知られています。一方、その交換財としての毛皮獲得のため、海獣狩猟用の離頭銛が発達し、活発に海獣漁が行われていたことから、毛皮生産が盛んに行われていたことなどが示されました。

記念誌の作成



15周年記念誌『遺跡が語る北海道の歴史』を全面改訂し、ここ10年間の発掘成果を加えた25周年記念誌『遺跡が語る北海道の歴史』(増補改訂版)を作成しました。北海道の歴史を考古学的成果によって明らかにしていく試みで、カラー写真をふんだんに使って各地の遺跡や遺物を紹介したわかりやすい内容になっています。講演・発表内容について掲載した『調査年報』17と合わせ、北海道立埋蔵文化財センター閲覧コーナーでご覧になってください。

○平成16年度発掘調査概要

今年度は道内10市町に所在する24遺跡で発掘調査を実施しました。このうち15遺跡は前年度などからの継続調査です。以下、調査の成果を時代、時期順に略述します。

旧石器時代：オリカ2遺跡から細石刃石器群が出土しています。札滑型細石刃核、細石刃、彫刻刀形石器、搔器などの石器、石核、剥片等で2,000点余出土しています。

縄文時代早期：西島松5遺跡ではアルトリ式土器に並行するとみなされる貝殻文平底土器が、良好な出土状態で20個体ほど検出されています。オリカ2遺跡では撚糸文土器の東釧路Ⅲ式土器が出土しています。

前期：森川3遺跡では円筒下層d式土器の時期の大型住居が検出されています。最大のもは長軸13m、短軸11mで、その周囲には幅5m、最大厚み80cmの掘り上げ土がめぐっています。覆土の堆積状況から屋根は土葺きだったと考えられます。主柱穴、壁際の杭列などの配列を見ると建て替えがなされたことが推定できます。

中期：三次郎川右岸遺跡の住居跡には、大型で4本の主柱穴が明瞭なもの、焼失家屋と考えられるもの、小型でベンチ構造をなすものなどがあります。

後期：館野遺跡では後期初頭のものとして推定できる配石遺構、盛土遺構が検出されました。配石遺構は長さ30mの石列が18mの間隔で二列認められるものです。石列の東端部分は耕作による破壊を受け、西端部分は調査範囲外へ延びており、この配石が一連のものかどうかは確定できませんでした。盛土遺構はこの配石遺構よりも外側に作られており、幅7～13m、最大厚み70cmで、多量の土器、石器等を含んでいます。

晩期：西島松3遺跡・西島松5遺跡では、昨年に引き続いて後期後葉～晩期前葉の時期の土坑墓・土坑、焼土などを検出しました。土坑の多くは、その上半部分を消失していますが、多種多様の出土物が得られています。墓の副葬品とみなされるのは、小型の鉢と注口土器の組み合わせ、石棒、石斧、玉、垂飾類、サメの歯、漆製品などです。漆製品には櫛、腕輪、腰紐などがあります。

続縄文時代：森川3遺跡の恵山式土器の時期の焼土には、多量の獣骨片・魚骨片を含み、周囲に柱穴を伴うものがあります。大町2遺跡では、後北CⅡ式土器の時期の遺構、遺物が検出されています。粘板岩の剥片はこの時期に顕著な石鏃の製作に関わるものです。

擦文文化期：柏木川13遺跡の住居跡はカリンバ型と呼ばれるものです。

アイヌ文化期：大町2遺跡では、内耳鉄鍋、刀子が出土しています。上台2遺跡では、前年に引き続き畑跡が検出されて、17世紀前半の時期が推定されています。オリカ2遺跡では、平成14年度に調査したものを含めて、平地住居（チセ）跡、建物跡、杭列、焼土・灰集中などが検出されています。

穂香川右岸遺跡では、近世末期と思われる陶磁器、金属製品、骨角器、ガラス玉、古銭などが出土しています。このなかにはコンプラ瓶も認められます。

事業委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積(m ²)		
札幌開発建設部	一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事	オリカ2	千歳市	5,500		
		チブニー2	千歳市	13,400		
		キウス5	千歳市	1,056		
石狩川開発建設部	石狩川改修工事の内対雁築堤工事	対雁2	江別市	3,550		
		対雁2	江別市	整理作業		
函館開発建設部	函館江差自動車道建設工事	館野	上磯町	2,815		
		館野	上磯町	整理作業		
		矢不來7	上磯町	2,141		
小樽開発建設部	一般国道276号岩内共和道路工事	リヤムナイ3	共和町	3,500		
室蘭開発建設部	一般国道234号早来道路改良工事	大町2	早来町	3,640		
釧路開発建設部	一般国道44号根室市根室道路工事	穂香川右岸	根室市	5,000		
網走開発建設部	一般国道450号白滝道路改良工事	服部台2ほか	白滝村	整理作業		
日本道路公団北海道支社	北海道縦貫自動車道建設工事	三次郎川左岸	森町	65		
		三次郎川右岸	森町	1,850		
		石倉5	森町	1,070		
		石倉4	森町	1,852		
		石倉1	森町	700		
		濁川左岸	森町	3,660		
		上台2	森町	4,140		
		森川3	森町	2,780		
		上台1ほか	森町	整理作業		
		石狩支庁(札幌土木現業所)	柏木川改修工事	西島松3	恵庭市	975
				西島松5	恵庭市	3,892
				柏木川4	恵庭市	8,470
				柏木川13	恵庭市	132
西島松5	恵庭市			整理作業		
渡島支庁(函館土木現業所)	太櫛川広域基幹改修工事	生淵2	北檜山町	1,800		
網走支庁(網走土木現業所)	社名瀬瀬戸瀬(停)線局改工事	栄野1	遠軽町	600		
		新野上2	遠軽町	2,140		
合 計				74,728		

きょうわ
○共和町リヤムナイ3遺跡



調査状況

遺跡は、共和町の西端、日本海に面した標高約7mの海岸砂丘地帯に位置しています。遺跡のある梨野舞納^{リヤムナイ}は、南側を岩内町、北側は泊村とほぼ隣接し、遺跡の南方には岩内岳を大きく望むことができます。今年度の調査範囲は3,500㎡です。遺構は、石器製作に関連する剥片の集中域や焼土、集石がありました。なかでも剥片集中は広範囲に渡って分布するものがあり、いずれも周辺から出土した土器から縄文時代前期前半頃にかけてのものと考えられます。

土器では前期前半の道南部の春日町式に相当する押引文や刺突文、羽状縄文、縄文の施された土器群が主になります。尖底と小さな平底のものがあります。石器は石鏃、スクレイパー、石核、たたき石等が多く、特にたたき石の出土が目立ちます。

はやきた おおまち
○早来町大町2遺跡



鉄鍋・礫集中出土状況

遺跡は、JR早来駅から北東0.8kmの大町地区市街地の北東端、馬追丘陵の南側を流れる安平川の支流ニタツポロ川左岸の河岸段丘上（標高約20m）に立地します。アイヌ文化期の鉄製品（内耳鉄鍋・刀子）を伴う焼けた礫の集中地点、続縄文時代の生活痕跡である焼土（焚き火の跡）や柱穴とともに土器（後北C₁式）・フレイク・礫の集中地点が見つかりました。アイヌ文化期の礫の集中地点は、同じようなものが近隣の厚真町でも出土しています。

縄文時代では中期から晩期にかけて、竪穴住居跡、墓、焼土、土器捨て場、礫の集中地点などが確認できました。調査は平成17年度も継続して行う予定です。

もりまちにこりかわさかん
○森町濁川左岸遺跡



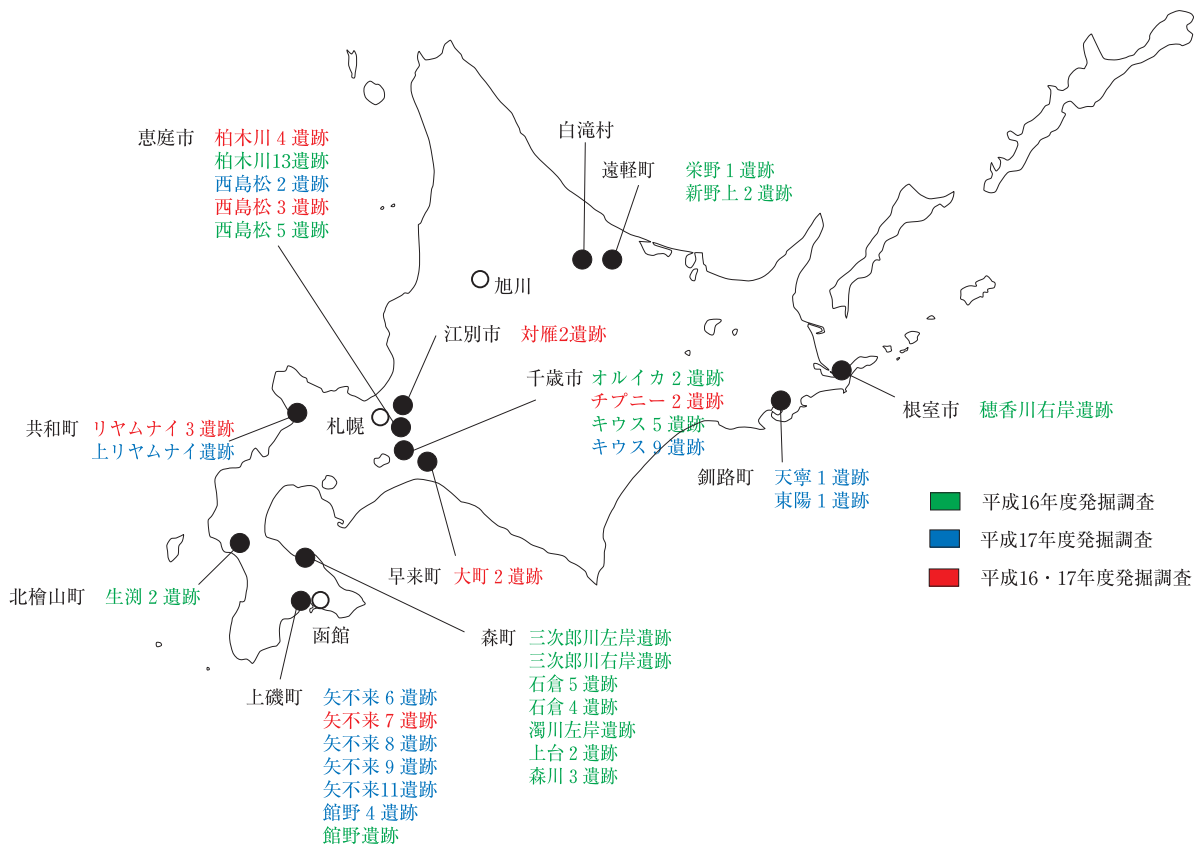
竪穴住居跡完掘

遺跡は、森町市街地から北西に約9km、海岸からは約700m奥に入った、標高37～46mの濁川の河岸段丘上にあります。調査は平成13・14年度にも行われており、主に縄文時代前期から後期前葉にかけての遺構・遺物が見つっています。

平成16年度は、その隣接地3,660㎡を調査し、竪穴住居跡8軒、土坑95基、配石遺構1基、石組炉5基、柱穴状の小土坑201基、焼土23ヵ所が見つかり、約11万点の遺物が出土しました。遺構と遺物は縄文時代後期前葉のものが主体です。この時期の竪穴住居跡は、直径4～6mほどの円形で、中心に石組炉があり、石組炉と斜面の下側の壁との間に立石が2つ並ぶ、という特徴があります。

○平成17年度発掘調査予定遺跡一覧

委託者		原因工事	遺跡名	所在地	調査面積(m ²)
国土交通省 北海道開発局	札幌開発建設部	一般国道337号千歳市 新千歳空港関連工事	チプニー 2	千歳市	1,300
			キウス 9		17,000
			オリイカ 2ほか		整理作業
	石狩川開発建設部	石狩川改修工事の内対雁築堤工事	対雁 2	江別市	3,650 整理作業
	函館開発建設部	函館江差自動車道建設工事	矢不來 6	上磯町	4,400
			矢不來 7		6,359
			矢不來 8		5,600
			矢不來 9		2,000
			矢不來11		4,900
			館野 4		7,400
館野	整理作業				
小樽開発建設部	一般国道276号岩内共和道路工事	リヤムナイ 3 上リヤムナイ	共和町	6,100 1,300	
室蘭開発建設部	一般国道234号早来道路改良工事	大町 2	早来町	2,400 整理作業	
釧路開発建設部	一般国道44号釧路外 環状道路改良工事	天寧 1 東陽 1	釧路町	2,341 400	
網走開発建設部	一般国道450号白滝道路改良工事	服部台 2ほか	白滝村	整理作業	
日本道路公団	北海道支社	北海道縦貫自動車道建設工事	三次郎川右岸	森町	整理作業
			森川 3		整理作業
北海道	石狩支庁 (札幌土木現業所)	柏木川改修工事	柏木川 4	恵庭市	14,140
			西島松 2		800
			西島松 3		8,635
			西島松 5		整理作業
合 計					88,725



平成16年度発掘調査・平成17年度発掘調査予定地点

○はるかなる時を越えて……北の縄文文化回廊展

北海道が北東北3県（青森・秋田・岩手）と共同で行っている「北の縄文文化回廊づくり事業」の一環として、『北の縄文文化回廊展』が開催されました。

（財）北海道埋蔵文化財センターは、この展示の企画と実施に携わりましたので、その内容について簡単に紹介しておきます。

1 時期及び場所

平成17年1月18日（火）～1月25日（火）8日間

場所：函館市芸術ホールギャラリー

2 来場者数

2232人

3 展示内容

関係市町村と遺跡数

北海道	37市町村	94遺跡	遺物及び写真
青森県	4市町村	14遺跡	遺物及び写真
岩手県	7市町村	14遺跡	遺物及び写真
秋田県	7市町村	7遺跡	遺物及び写真

出品遺物点数 約600点

土器100点 ヒスイ玉120点 貝製品70点 動物形土製品27点
骨角製品10点 石器80点など

出品写真パネル数 120点

4 来場者へのアンケート調査から（回答数312人）

（1）最も興味を引かれた遺構・遺物（複数回答149件 10名以上）

土器34名・赤彩土器33名・土偶28名・足形付き土版27名・ストーンサークル23名・動物形土製品21名・土製仮面19名・ヒスイ玉14名・青竜刀形石器13名・不思議な形の遺物10名・展示すべて21名

（2）展示に対する満足度（アンケート調査から312件）

「とてもよい」205名 「よい」87名 「ふつう」10名 「あまりよくない」1名 無回答9名

・「とてもよい」「よい」が94%をしめ、展示に対する満足度は高かったと考えられる。



展示風景 縄文文化回廊の形成



展示風景 北のシンボル クマとイノシシ



展示見学に来た小学生の団体



展示風景 赤彩土器

○設立25周年の資料蓄積

2004年11月20日（土）、財団法人北海道埋蔵文化財センターの設立25周年記念の講演会・シンポジウムが行われました。この催しの概要は、本誌「テエタ」第14号に紹介しており、さらに『調査年報17』に発表資料を再録してあります。この公開行事にあわせて記念誌『遺跡が語る北海道の歴史』も刊行されております。

ここで記念誌に直接盛り込めなかった諸数値をいくつか紹介しておきます。数値はすべて2004年3月までのものです。発掘遺跡数は、調査期間が1か月に満たない短期のものから、長くは数年に亘って継続したもので大小合計247遺跡を数えます。調査面積の合計170万㎡は、北海道大学のキャンパス敷地に相当する広さです。刊行した緊急発掘の報告書は合計209冊となり、厚いのは1500ページを超えますが、最も薄いのは16ページのものであります。当初報告書の大きさはB5判でしたが、1984年のころからA4判のものが増えて、1990年以後はすべてA4判になっています。ちなみに209冊分の厚さを合計すると530cmほどになります。これらの調査報告書は、すべてオリジナルレポート（原基文献）であり、北海道の歴史についての基礎的な資料になります。

それぞれの報告書に記載されている炭素年代測定値を、記念誌に取りまとめてあります。当埋蔵文化財センターの調査に関連して得られた炭素年代測定値は900点に達しており、このうちベータ線法によるものが400点、AMS法によるものが500点です。AMS法による測定値は1998年の報告書から始まり、年々比率が高まり、最近では測定値のすべてがAMS法になっています。土器付着物を測定試料とするものは1999年からみられ、測定例は50点ほどあります。しかし、これらには、例えばクルミ殻などを試料とした測定数値と比較してみると2割程度の増大数値を示すものが多くあります。このことから土器付着物で得られる年代測定値は、蓄積資料の整合性という観点において、再検討の余地があるようです。

発掘報告書は北海道立埋蔵文化財センターの閲覧コーナーに置いてあります。

膨大な発掘成果が、専門家のみならず多くの方々によって利用されるよう願っています。

北海道内における多種多様で

（第2調査部長 西田 茂）



◆交通案内◆

- ・JR大麻駅から、徒歩約20分
- ・新さっぽろバスターミナル発
 - ・JRバス・夕鉄バス（文教通西循環線・文京台南町行）に乗車「くりの木公園前」下車、徒歩5分
 - ・JRバス・夕鉄バス（江別方面行き）に乗車「道浅井学園大札学院大前」下車、徒歩15分